

入生田菌類誌資料 No.023

サクラてんぐ巣病菌

Taphrina wiesneri (Ráthay) Mix

宿主：ソメイヨシノ *Prunus yedoensis* Matsum.

子囊菌門 Ascomycota タフリナ亜門 Taphrinomycotina タフリナ綱 Taphrinomycetes

タフリナ目 Taphrinomycetales タフリナ科 Taphrinaceae

供試標本

KPM-NC0017242, 2010年5月27日, 入生田マイクロ通り(箱根山荘), 佐々木シゲ子・赤堀千里採集.

肉眼的特徴

罹病したサクラの枝は多数枝分かかれし、鳥の巣状になる。4月から5月頃、病巣部の葉には白い粉状のものが生じる。この部分に子のうが形成されている。

顕微鏡的特徴

宿主組織上に子のうを裸出して形成する。子のうの下部には隔壁があり、その下に脚胞と呼ばれる細胞がある。子のう内の子のう胞子はすぐ出芽して、小さいたくさんの分生子(芽生胞子)ができる。このため、子のうの中に大きさのそろった子嚢胞子(2.5 μm)が少数と、大きさの不揃いな分生子(1-3 μm)が多数見られる。

ノート

罹病部は、本来、花が展開する時期に花がつかず、枝葉が叢生しているのを観察できる。

文献

岸 國平編, 1998. 日本植物病害大事典. p.988. 全国農村教育協会, 東京.

小林享夫・勝本 謙・我孫子和雄・阿部恭久・柿寫 眞編, 1992. 植物病原菌類図説. p.74. 全国農村教育協会, 東京.

担当：佐々木シゲ子
監修：小林享夫



図1. サクラ上の病徴.



図2. 白色粉状になった葉.



図3. 子嚢と子嚢胞子および分生子. bar: 10 μm.